

## 【概 要】

### 平成21年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査（北海道）

本調査は、平成21年度間の公立学校における暴力行為、いじめ、不登校、中途退学の状況を平成22年度に調査し公表するものです。

また、本数値には、札幌市立学校を含んでいます。

基本となる学校数及び児童生徒数

	公立学校総数		在籍児童生徒数	
	平成21年度	平成20年度	平成21年度	平成20年度
小学校	1,277 校	1,300 校	276,744 人	281,140 人
中学校	665 校	668 校	144,093 人	145,866 人
高等学校	263 校	269 校	115,107 人	117,014 人
小・中・高等学校の計	2,205 校	2,237 校	535,944 人	544,020 人
特別支援学校	61 校	60 校	4,748 人	4,525 人
合 計	2,266 校	2,297 校	540,692 人	548,545 人

平成21年5月1日現在の数値である。  
いじめにおける高等学校の学校総数については、全定併置校はそれぞれにカウントしており、302校となる。

### 結果の概要

#### 1 公立小・中・高等学校の暴力行為の発生件数

	平成21年度		参考	平成20年度													
	発生件数	1,000人当たりの発生件数		発生件数	1,000人当たりの発生件数												
小学校	89件	0.3	<table border="1"> <tr> <td>小学校</td> <td>16件</td> <td>0.05</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>764件</td> <td>5.2</td> </tr> <tr> <td>高等学校</td> <td>31件</td> <td>0.3</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>811件</td> <td>1.5</td> </tr> </table>	小学校	16件	0.05	中学校	764件	5.2	高等学校	31件	0.3	計	811件	1.5		
小学校	16件	0.05															
中学校	764件	5.2															
高等学校	31件	0.3															
計	811件	1.5															
中学校	1,054件	7.3															
高等学校	344件	3.0															
計	1,487件	2.8															

平成21年度から「暴力行為」については、未然防止、早期発見・早期対応の取組が重要であることから、事案の軽重にかかわらず、調査対象とすることとしたため、小・中・高等学校とも前年度より増加している。

#### 2 公立小・中・高等学校、特別支援学校のいじめの認知件数

	平成21年度		平成20年度	
	認知件数	1,000人当たりの認知件数	認知件数	1,000人当たりの認知件数
小学校	1,627件	5.9	2,285件	8.1
中学校	1,444件	10.0	1,748件	12.0
高等学校	300件	2.6	275件	2.4
特別支援学校	19件	4.0	22件	4.9
合計	3,390件	6.3	4,330件	7.9

小学校 ~前年度に比べ、658件減少(2,285 1,627)している。  
 中学校 ~前年度に比べ、304件減少(1,748 1,444)している。  
 高等学校 ~前年度に比べ、25件増加(275 300)している。  
 特別支援学校 ~前年度に比べ、3件減少(22 19)している。  
 全 体 ~前年度に比べ、940件減少(4,330 3,390)している。

#### 3 公立高等学校の不登校生徒数

	平成21年度	平成20年度
不登校生徒数	716 人	657 人
在籍比	0.6 %	0.6 %

前年度に比べ、59人増加(不登校生徒数657 716)している。  
(在籍比 0.6 0.6)

#### 4 公立高等学校の中途退学者数

	平成21年度	平成20年度
中途退学者数	1,934 人	2,149 人
中途退学率	1.7 %	1.8 %

前年度に比べ、215人減少(中途退学者数2,149 1,934)している。  
(中途退学率 1.8 1.7)

#### 5 公立小・中学校の不登校児童生徒数

	平成21年度		平成20年度	
	不登校児童生徒数	在籍比	不登校児童生徒数	在籍比
小学校	763人	0.28%	726人	0.26%
中学校	3,421人	2.37%	3,424人	2.35%
計	4,184人	0.99%	4,150人	0.97%

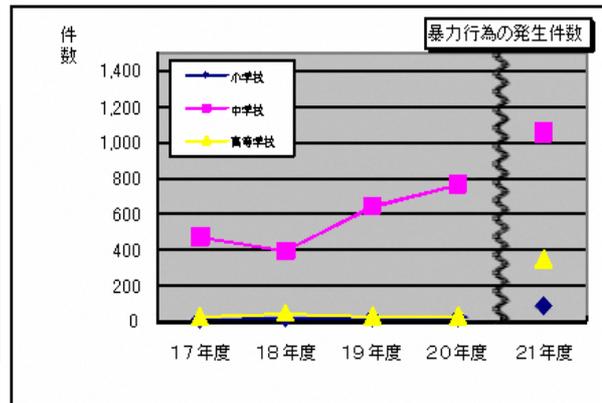
小学校 ~前年度に比べ、37人増加(726 763)している。  
 中学校 ~前年度に比べ、3人減少(3,424 3,421)している。  
 全体 ~前年度に比べ、34人増加(4,150 4,184)している。

## 公立小・中学校、高等学校の暴力行為

「暴力行為」については、未然防止、早期発見・早期対応の取組が重要であることから、事案の軽重にかかわらず、調査対象とすることとした。

### 1 暴力行為の発生件数の推移

	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
小学校	7	15	21	16	89
中学校	474	392	644	764	1,054
高等学校	27	45	30	31	344
計	508	452	695	811	1,487



### 2 学校種別暴力行為の発生学校数及び発生件数

	平成21年度		発生学校数		発生件数
	学校内	学校外	学校数	発生率	
小学校	学校内	23校	1.8%	77件	
	学校外	6校	0.5%	12件	
	小計	-	-	89件	
中学校	学校内	173校	26.0%	921件	
	学校外	82校	12.3%	133件	
	小計	-	-	1054件	
高等学校	学校内	124校	47.1%	297件	
	学校外	34校	12.9%	47件	
	小計	-	-	344件	
合計	学校内	320校	14.5%	1295件	
	学校外	122校	5.5%	192件	
	合計	-	-	1487件	

発生率 = 発生学校数 / 公立学校総数 × 100

#### 参考

	平成20年度		発生学校数		発生件数
	学校内	学校外	学校数	発生率	
小学校	学校内	9校	0.7%	11件	
	学校外	5校	0.4%	5件	
	小計	-	-	16件	
中学校	学校内	84校	12.6%	682件	
	学校外	48校	7.2%	82件	
	小計	-	-	764件	
高等学校	学校内	11校	4.1%	18件	
	学校外	12校	4.5%	13件	
	小計	-	-	31件	
合計	学校内	104校	4.6%	711件	
	学校外	65校	2.9%	100件	
	合計	-	-	811件	

### 3 暴力行為の種別発生学校数及び発生件数

	平成21年度		発生学校数		発生件数	
	小学校	中学校	高等学校	合計	小学校	中学校
対教師暴力	小学校	6校	15件			
	中学校	46校	112件			
	高等学校	27校	41件			
	合計	79校	168件			
生徒間暴力	小学校	20校	51件			
	中学校	193校	584件			
	高等学校	119校	189件			
	合計	332校	824件			
対人暴力	小学校	1校	1件			
	中学校	27校	32件			
	高等学校	10校	11件			
	合計	38校	44件			
器物損壊	小学校	9校	22件			
	中学校	97校	326件			
	高等学校	61校	103件			
	合計	167校	451件			

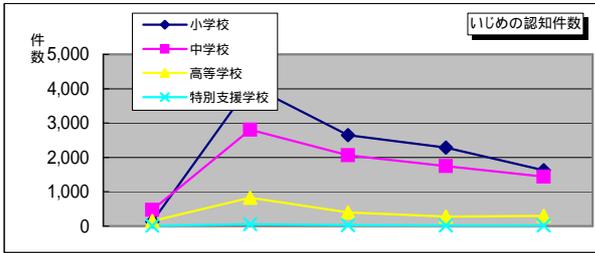
#### 参考

	平成20年度		発生学校数		発生件数	
	小学校	中学校	高等学校	合計	小学校	中学校
対教師暴力	小学校	3校	3件			
	中学校	39校	108件			
	高等学校	5校	6件			
	合計	47校	117件			
生徒間暴力	小学校	6校	6件			
	中学校	112校	384件			
	高等学校	10校	14件			
	合計	128校	404件			
対人暴力	小学校	1校	1件			
	中学校	17校	31件			
	高等学校	7校	7件			
	合計	25校	39件			
器物損壊	小学校	4校	6件			
	中学校	43校	241件			
	高等学校	1校	4件			
	合計	48校	251件			

# 平成21年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査（北海道）

## 公立小、中学校、高等学校、特別支援学校のいじめ

### 1 いじめの認知件数の推移



本調査におけるいじめの定義  
個々の行為が「いじめ」に当たるか否かの判断は、表面的・形式的に行うことなく、いじめられた児童生徒の立場に立つて行うものとする。

「いじめ」とは、「当該児童生徒が、一定の人間関係のある者から、心理的・物理的な攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているもの。」とする。

なお、起こった場所は学校の内外を問わない。

旧定義

「いじめ」とは、「自分より弱い物に対して一方的に、身体的・心理的な攻撃を継続的に加え、相手が深刻な苦痛を感じているもの。」

	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
小学校	127	4,099	2,651	2,285	1,627
中学校	472	2,809	2,061	1,748	1,444
高等学校	153	825	404	275	300
特別支援学校	8	52	28	22	19
計	760	7,785	5,144	4,330	3,390

経年変化

いじめの認知件数は、H18より減少しており、H21年度は4,000件を下回ったが、高等学校において増加している。

前年度との比較

- 小学校 ~前年度に比べ 658件減少している。
- 中学校 ~前年度に比べ 304件減少している。
- 高等学校 ~前年度に比べ 25件増加している。
- 特別支援学校 ~前年度に比べ 3件減少している。
- 全体 ~前年度に比べ 940件減少している。

### 2 学校種別いじめの認知学校数及び認知件数、在籍比

	認知学校数				認知件数		在籍比	
	学校数		認知率					
	平成21年度	平成20年度	平成21年度	平成20年度	平成21年度	平成20年度	平成21年度	平成20年度
小学校	325校	355校	25.5%	27.3%	1,627件	2,285件	0.59	0.81
中学校	314校	340校	47.2%	50.9%	1,444件	1,748件	1.00	1.20
高等学校	115校	122校	38.1%	39.5%	300件	275件	0.26	0.24
特別支援学校	6校	5校	9.8%	8.3%	19件	22件	0.40	0.49

認知率 = 認知学校数 / 公立学校総数 × 100

### 3 いじめの解消状況

	いじめが解消しているもの（解消率）		
	平成21年度	平成20年度	平成19年度
小学校	95.0%	92.3%	87.0%
中学校	86.8%	85.3%	79.8%
高等学校	93.7%	79.3%	79.7%
特別支援学校	78.9%	90.9%	67.9%
計	91.3%	88.6%	83.4%

### 4 いじめ発見のきっかけ（12項目一選択）

学校種	順位	いじめ発見のきっかけ			
		平成21年度		平成20年度	
小学校		アンケート調査など学校の取組により発見	49.4%	アンケート調査など学校の取組により発見	48.0%
		本人からの訴え	14.5%	学級担任が発見	17.2%
		学級担任が発見	14.4%	本人からの訴え	15.0%
		当該児童生徒（本人）の保護者からの訴え	14.2%	当該児童生徒（本人）の保護者からの訴え	12.0%
		保護者（本人の保護者を除く）からの情報	3.1%	保護者（本人の保護者を除く）からの情報	2.5%
		児童生徒（本人を除く）からの情報	2.2%	児童生徒（本人を除く）からの情報	2.1%
		学級担任以外の教職員が発見	0.9%	学級担任以外の教職員が発見	2.1%
		学校以外の関係機関（相談機関を含む）からの情報	0.9%	学校以外の関係機関（相談機関を含む）からの情報	0.5%
		養護教諭が発見	0.2%	養護教諭が発見	0.5%
		地域の住民からの情報	0.1%	スクールカウンセラー等の外部の相談員が発見	0.2%
		スクールカウンセラー等の外部の相談員が発見	0.1%	地域の住民からの情報	0.1%
		その他（匿名による投書など）	0.0%	その他（匿名による投書など）	0.0%
中学校		アンケート調査など学校の取組により発見	33.0%	アンケート調査など学校の取組により発見	30.7%
		本人からの訴え	28.8%	本人からの訴え	25.8%
		学級担任が発見	16.2%	学級担任が発見	17.7%
		当該児童生徒（本人）の保護者からの訴え	12.1%	当該児童生徒（本人）の保護者からの訴え	13.3%
		学級担任以外の教職員が発見	3.1%	児童生徒（本人を除く）からの情報	4.5%
		児童生徒（本人を除く）からの情報	3.1%	学級担任以外の教職員が発見	3.8%
		保護者（本人の保護者を除く）からの情報	2.1%	保護者（本人の保護者を除く）からの情報	2.9%
		学校以外の関係機関（相談機関を含む）からの情報	0.6%	養護教諭が発見	0.6%
		養護教諭が発見	0.3%	スクールカウンセラー等の外部の相談員が発見	0.3%
		スクールカウンセラー等の外部の相談員が発見	0.5%	地域の住民からの情報	0.1%
		養護教諭が発見	0.3%	学校以外の関係機関（相談機関を含む）からの情報	0.1%
		その他（匿名による投書など）	0.1%	その他（匿名による投書など）	0.1%
	地域の住民からの情報	0.1%	その他（匿名による投書など）	0.1%	

高等学校	アンケート調査など学校の取組により発見	33.0%	本人からの訴え	35.6%
	本人からの訴え	30.3%	学級担任が発見	14.9%
	当該児童生徒（本人）の保護者からの訴え	11.0%	アンケート調査など学校の取組により発見	14.9%
	学級担任が発見	10.0%	当該児童生徒（本人）の保護者からの訴え	13.5%
	学級担任以外の教職員が発見	6.3%	学級担任以外の教職員が発見	10.2%
	児童生徒（本人を除く）からの情報	4.0%	児童生徒（本人を除く）からの情報	6.9%
	学校以外の関係機関（相談機関を含む）からの情報	2.0%	保護者（本人の保護者を除く）からの情報	2.2%
	保護者（本人の保護者を除く）からの情報	1.3%	養護教諭が発見	1.1%
	養護教諭が発見	1.0%	地域の住民からの情報	0.4%
	その他（匿名による投書など）	0.7%	学校以外の関係機関（相談機関を含む）からの情報	0.4%
	スクールカウンセラー等の外部の相談員が発見	0.3%	スクールカウンセラー等の外部の相談員が発見	0.0%
	地域の住民からの情報	0.0%	その他（匿名による投書など）	0.0%
	特別支援学校	本人からの訴え	42.1%	本人からの訴え
学級担任が発見		26.3%	当該児童生徒（本人）の保護者からの訴え	22.7%
児童生徒（本人を除く）からの情報		21.1%	学級担任が発見	18.2%
学級担任以外の教職員が発見		10.5%	学級担任以外の教職員が発見	13.6%
養護教諭が発見		0.0%	養護教諭が発見	0.0%
スクールカウンセラー等の外部の相談員が発見		0.0%	スクールカウンセラー等の外部の相談員が発見	0.0%
アンケート調査など学校の取組により発見		0.0%	アンケート調査など学校の取組により発見	0.0%
当該児童生徒（本人）の保護者からの訴え		0.0%	児童生徒（本人を除く）からの情報	0.0%
保護者（本人の保護者を除く）からの情報		0.0%	保護者（本人の保護者を除く）からの情報	0.0%
地域の住民からの情報		0.0%	地域の住民からの情報	0.0%
学校以外の関係機関（相談機関を含む）からの情報		0.0%	学校以外の関係機関（相談機関を含む）からの情報	0.0%
その他（匿名による投書など）		0.0%	その他（匿名による投書など）	0.0%

## 5 いじめの態様（9項目から複数選択）

学校種	いじめの態様			
	平成21年度		平成20年度	
小学校	冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる	69.5%	冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる	69.4%
	仲間はずれ、集団による無視をされる	24.1%	仲間はずれ、集団による無視をされる	28.4%
	軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする	21.0%	軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする	24.4%
	ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする	6.8%	金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする	6.5%
	嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする	4.1%	嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする	6.4%
	金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする	3.3%	ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする	4.0%
	金品をたかられる	0.5%	金品をたかられる	1.1%
	パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷やいやなことをされる	0.4%	パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷やいやなことをされる	1.0%
	その他	0.0%	その他	0.4%
中学校	冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる	72.5%	冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる	70.8%
	仲間はずれ、集団による無視をされる	20.2%	仲間はずれ、集団による無視をされる	19.2%
	軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする	14.8%	軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする	13.8%
	金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする	7.5%	パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷や嫌なことをされる	7.7%
	パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷や嫌なことをされる	6.9%	金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする	7.0%
	嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする	4.6%	嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする	4.9%
	ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする	3.3%	ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする	4.5%
	金品をたかられる	0.9%	金品をたかられる	2.2%
	その他	0.8%	その他	1.1%
高等学校	冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる	54.0%	冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる	53.5%
	パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷や嫌なことをされる	24.3%	パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷や嫌なことをされる	22.5%
	軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする	18.3%	軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする	21.5%
	嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする	13.3%	仲間はずれ、集団による無視をされる	15.3%
	仲間はずれ、集団による無視をされる	13.0%	嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする	9.5%
	金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする	8.7%	ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする	7.3%
	ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする	8.3%	その他	6.2%
	金品をたかられる	6.3%	金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする	5.8%
	その他	3.7%	金品をたかられる	2.5%
特別支援学校	冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる	63.2%	仲間はずれ、集団による無視をされる	36.4%
	パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷やいやなことをされる	26.3%	ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする	31.8%
	軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする	21.1%	冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる	22.7%
	ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする	15.8%	軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする	13.6%
	金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする	15.8%	金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする	9.1%
	仲間はずれ、集団による無視をされる	10.5%	パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷やいやなことをされる	9.1%
	嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする	10.5%	金品をたかられる	0.0%
	金品をたかられる	0.0%	嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする	0.0%
	その他	0.0%	その他	0.0%

## 公立小・中学校の不登校

### 1 不登校児童生徒数(公立小・中学校)

	平成21年度		平成20年度	
小学校	763人	0.28%	726人	0.26%
中学校	3,421人	2.37%	3,424人	2.35%
計	4,184人	0.99%	4,150人	0.97%

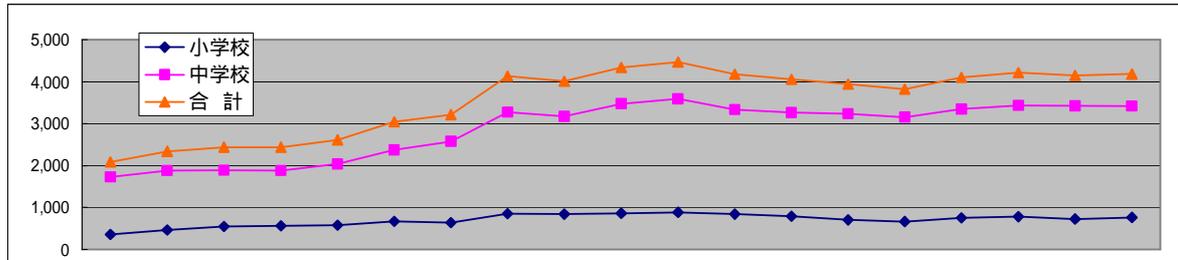
年間30日以上欠席した者のうち、主たる理由が「不登校」の者の数  
「%」は在籍児童生徒数に対する不登校児童生徒数の割合

小学校 ~ 昨年度に比べ、37人増加(726 → 763)している。  
中学校 ~ 昨年度に比べ、3人減少(3,424 → 3,421)している。

### 2 不登校の経年変化

(1) 平成3年度以降の不登校の状況

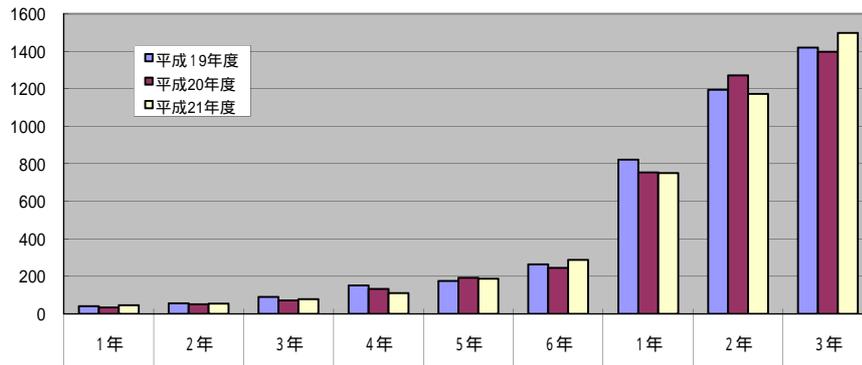
年度間に通算30日以上欠席児童生徒のうち不登校を理由とする児童生徒数の推移(平成4年度調査以降)



	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
小学校	357	460	551	560	576	671	641	856	841	864	886	840	792	707	667	752	780	726	763
中学校	1,729	1,882	1,890	1,882	2,040	2,376	2,577	3,277	3,173	3,474	3,588	3,339	3,268	3,238	3,157	3,349	3,437	3,424	3,421
合計	2,086	2,342	2,441	2,442	2,616	3,047	3,218	4,133	4,014	4,338	4,474	4,179	4,060	3,945	3,824	4,101	4,217	4,150	4,184

(注1) 長期欠席児童生徒の調査は、昭和35年度から実施。  
(注2) 長期欠席のうち「不登校」を理由とした児童生徒数は昭和42年度から開始。  
(平成10年度までは項目名は「学校ざらい」で、平成11年度から項目名を「不登校」に変更した)  
(注3) 平成3年度から「30日以上欠席した児童生徒」を対象として調査している。(それ以前は、50日以上)

(2) 過去3年間の学年別不登校児童生徒数の推移



学年	小学校						中学校		
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年
平成19年度	41	57	91	151	176	264	822	1,195	1,420
平成20年度	34	51	71	132	193	245	754	1,272	1,398
平成21年度	46	54	79	110	187	287	750	1,173	1,498

### 3 不登校となったきっかけと考えられる状況（14項目から考えられるもの全て選び回答）

学校 順位	不登校となったきっかけ			
	平成21年度		平成20年度	
小学校	その他本人に関わる問題	46.3%	その他本人に関わる問題	40.4%
	親子関係をめぐる問題	15.9%	親子関係をめぐる問題	15.6%
	いじめを除く友人関係をめぐる問題	11.3%	その他	13.2%
	その他	11.3%	家庭の生活環境の急激な変化	10.9%
	家庭の生活環境の急激な変化	8.3%	いじめを除く友人関係をめぐる問題	10.3%
	学業の不振	7.5%	学業の不振	9.1%
	病気による欠席	6.9%	病気による欠席	9.0%
	家庭内の不和	5.0%	家庭内の不和	5.8%
	不明	4.2%	不明	4.8%
	教職員との関係をめぐる問題	3.9%	教職員との関係をめぐる問題	4.1%
	入学、転編入学、進級時の不適応	2.0%	入学、転編入学、進級時の不適応	3.0%
	いじめ	1.8%	いじめ	2.8%
	学校のきまり等をめぐる問題	1.0%	学校のきまり等をめぐる問題	1.4%
	クラブ活動、部活動等への不適応	0.3%	クラブ活動、部活動等への不適応	0.1%
中学校	その他本人に関わる問題	48.7%	その他本人に関わる問題	45.1%
	いじめを除く友人関係をめぐる問題	16.5%	いじめを除く友人関係をめぐる問題	20.7%
	学業の不振	9.9%	学業の不振	9.8%
	病気による欠席	7.9%	親子関係をめぐる問題	7.0%
	親子関係をめぐる問題	7.7%	病気による欠席	5.9%
	家庭の生活環境の急激な変化	5.5%	家庭の生活環境の急激な変化	5.3%
	入学、転編入学、進級時の不適応	4.5%	その他	4.3%
	その他	3.7%	入学、転編入学、進級時の不適応	3.5%
	学校のきまり等をめぐる問題	3.3%	不明	3.5%
	家庭内の不和	3.1%	学校のきまり等をめぐる問題	3.3%
	不明	3.0%	家庭内の不和	3.2%
	いじめ	2.2%	いじめ	3.1%
	教職員との関係をめぐる問題	1.6%	クラブ活動、部活動等への不適応	1.8%
	クラブ活動、部活動等への不適応	1.5%	教職員との関係をめぐる問題	1.6%

(注)・平成18年度調査から、「友人関係をめぐる問題」の項目が、いじめといじめを除くものに分かれている。  
 ・「その他本人に関わる問題」とは、極度の不安や緊張、無気力等で他に特に直接のきっかけとなるような事柄が見あたらないもの

### 4 不登校児童生徒への指導結果状況

	小学校				中学校				計			
	人数		不登校児童に対する比率		人数		不登校生徒に対する比率		人数		不登校児童生徒に対する比率	
	H21	H20	H21	H20	H21	H20	H21	H20	H21	H20	H21	H20
指導の結果登校する又はできるようになった児童生徒	240人	224人	31.5%	30.9%	1,009人	970人	29.5%	28.3%	1,249人	1,194人	29.9%	28.8%
指導中の児童生徒	523人	502人	68.5%	69.2%	2,412人	2,452人	70.5%	71.7%	2,935人	2,956人	70.1%	71.2%
うち登校には至らないものの好ましい変化が見られるようになった児童生徒	142人	136人	18.6%	18.7%	582人	650人	17.0%	19.0%	724人	786人	17.3%	18.9%
計	763人	726人			3,421人	3,424人			4,184人	4,150人		

5 「指導の結果登校する又はできるようになった児童生徒」に特に効果のあった学校の措置

( 16項目の学校の措置から選び回答 )

順位	効果があった学校の措置
小学校	家庭訪問を行い、学業や生活面での相談にのるなど様々な指導・援助を行った。
	登校を促すため、電話をかけたり迎えに行くなどした。
	保護者の協力を求めて、家族関係や家庭生活の改善を図った。
	全ての教師が当該児童生徒に触れ合いを多くするなどして学校全体で指導にあたった。
	様々な活動の場面において本人が意欲をもって活動できる場を用意した。
	不登校の問題について、研修会や事例研究会を通じて全教師の共通理解を図った。
	教師との触れ合いを多くするなど、教師との関係を改善した。
	教育相談センター等の相談機関と連携して指導にあたった。
	スクールカウンセラー、相談員等が専門的に相談にあたった。
	友人関係を改善するための指導を行った。
	保健室等特別の場所に登校させて指導にあたった。
	養護教諭が専門的に指導にあたった。
	授業方法の改善、個別の指導など授業がわかるようにする工夫を行った。
	病院等の医療機関と連携して指導にあたった。
	教育相談担当の教師が専門的に指導にあたった。
	その他
中学校	家庭訪問を行い、学業や生活面での相談にのるなど様々な指導・援助を行った。
	登校を促すため、電話をかけたり迎えに行くなどした。
	不登校の問題について、研修会や事例研究会を通じて全教師の共通理解を図った。
	保護者の協力を求めて、家族関係や家庭生活の改善を図った。
	スクールカウンセラー、相談員等が専門的に相談にあたった。
	全ての教師が当該児童生徒に触れ合いを多くするなどして学校全体で指導にあたった。
	保健室等特別の場所に登校させて指導にあたった。
	教師との触れ合いを多くするなど、教師との関係を改善した。
	友人関係を改善するための指導を行った。
	教育相談センター等の相談機関と連携して指導にあたった。
	様々な活動の場面において本人が意欲をもって活動できる場を用意した。
	養護教諭が専門的に指導にあたった。
	病院等の医療機関と連携して指導にあたった。
	授業方法の改善、個別の指導など授業がわかるようにする工夫を行った。
	教育相談担当の教師が専門的に指導にあたった。
	その他

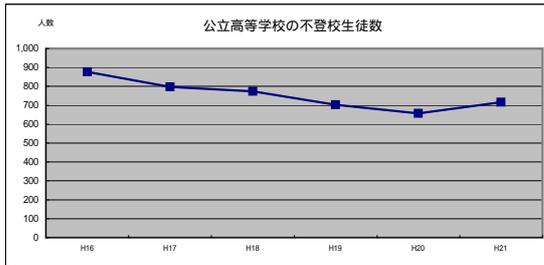
## 公立高等学校の不登校

### 1 公立高等学校における理由別長期欠席者数

年度	在籍者数(人)	不登校	経済的理由	病気	その他	計
平成21年度	115,107 (在籍比)	716 0.6%	44 0.1%	314 0.3%	221 0.2%	1295
平成20年度	117,014 (在籍比)	657 0.6%	43 0.1%	371 0.3%	287 0.2%	1358

年間30日以上欠席した者

### 2 公立高等学校における不登校の状況



<前年度との比較>  
 人数 ~前年度に比べ、59人増加している。  
 在籍比~前年度と同じ。

【内訳】

全日制 476人(0.4%) (前年度 444人(0.4%))  
 定時制 240人(4.4%) (前年度 231人(4.0%))

	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
不登校生徒数	877	797	774	703	657	716
在籍比	0.7%	0.6%	0.6%	0.6%	0.6%	0.6%

年間30日以上欠席した者のうち、  
 主たる理由が「不登校」の者の数  
 平成16年度から調査を実施

### 3 学年別不登校生徒数

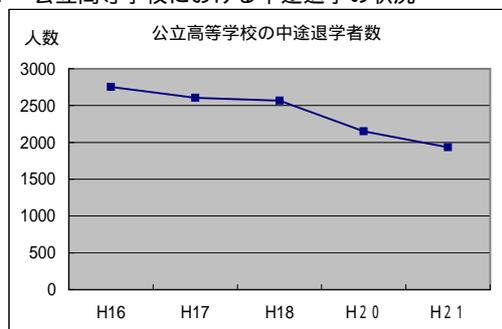
	不登校生徒数					
	平成21年度			平成20年度		
	人数	在籍比	構成比	人数	在籍比	構成比
第1学年	275人	0.8%	38.4%	305人	0.8%	46.4%
第2学年	204人	0.6%	28.5%	162人	0.5%	24.7%
第3学年	81人	0.2%	11.3%	86人	0.2%	13.1%
第4学年	6人	0.8%	0.8%	2人	0.3%	0.3%
単位制	150人	2.1%	20.9%	102人	1.4%	15.5%

### 4 不登校となったきっかけと考えられる状況(15項目から考えられるものを全て選び回答)

順位	不登校となったきっかけ			
	平成21年度		平成20年度	
	その他本人に関わる問題	37.8%	その他本人に関わる問題	31.1%
	いじめを除く友人関係をめぐる問題	19.4%	いじめを除く友人関係をめぐる問題	18.1%
	病気による欠席	9.6%	学業の不振	11.1%
	学業の不振	9.5%	入学、転編入学、進級時の不適応	9.3%
	進路にかかる不安	8.9%	進路にかかる不安	7.0%
	入学、転編入学、進級時の不適応	8.1%	病気による欠席	6.7%
	親子関係をめぐる問題	7.7%	親子関係をめぐる問題	5.6%
	不明	5.2%	家庭の生活環境の急激な変化	4.4%
	家庭の生活環境の急激な変化	4.7%	その他	3.5%
	学校のきまり等をめぐる問題	4.1%	学校のきまり等をめぐる問題	3.2%
	家庭内の不和	4.1%	不明	2.1%
	クラブ活動、部活動等への不適応	3.5%	いじめ	2.0%
	その他	3.5%	家庭内の不和	1.8%
	いじめ	2.9%	クラブ活動、部活動等への不適応	0.6%
	教職員との関係をめぐる問題	2.5%	教職員との関係をめぐる問題	0.5%

## 公立高等学校の中途退学

### 1 公立高等学校における中途退学の状況



<経年変化>

過去6年間、中途退学者数は減少傾向が続いている。  
なお、在籍比については、昨年度に引き続き減少した。

<前年度との比較>

人数 ~ 前年度に比べ、215人減少している。  
在籍比 ~ 前年度と比べ、0.1ポイント減少。

【内訳】

全日制 1,398人（1.3%）（前年度 1,568人（1.4%））  
定時制 536人（9.8%）（前年度 581人（10.8%））

	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
中途退学者数	2,755	2,604	2,565	2,390	2,149	1,934
中途退学率	2.1	2.1	2.1	2.0	1.8	1.7

### 2 学年別中途退学者数

	中途退学者数					
	平成21年度			平成20年度		
	人数	中退率	構成比	人数	中退率	構成比
第1学年	1,111人	3.1%	57.4%	1,179人	3.2%	54.9%
第2学年	503人	1.4%	26.0%	600人	1.7%	27.9%
第3学年	235人	0.7%	12.2%	241人	0.7%	11.2%
第4学年	13人	1.7%	0.7%	25人	3.9%	1.2%
単位制	72人	1.0%	3.7%	104人	1.5%	4.8%

### 3 中途退学となった理由（8項目の主たる理由から選び回答）

順位	中途退学となった理由			
	平成21年度		平成20年度	
	進路変更	41.6%	学校生活・学業不適應	37.1%
	学校生活・学業不適應	36.5%	進路変更	36.1%
	学業不振	5.0%	学業不振	6.9%
	病気がけが死亡	4.7%	問題行動等	6.1%
	問題行動等	4.4%	病気がけが死亡	5.6%
	家庭の事情	4.0%	家庭の事情	4.4%
	その他の理由	2.0%	経済的理由	2.3%
	経済的理由	1.8%	その他の理由	1.4%